

名古屋市ユース (U-14) サッカー選手権大会 2018 審判割り当て

- ※ 審判をする上で、以下のことに注意してください。
- ・審判を割り当てられているチームで主審 (1名)・副審 (2名) を担当すること。主審は必ず有資格者が担当すること。
 - ・副審は選手可 (ルールに詳しい者、有資格者が望ましい。準々決勝は選手不可、有資格者のみ)
 - ・主審・副審の割り当ては審判担当チーム同士で事前に話し合っておくこと。
 - ・会場担当チームは第4の審判員を担当するため、会場担当チームと対戦するチームは主審を担当すること。
 - ・主審は審判服を着用すること。(副審もできる限り審判服を着用すること。)

10/14(日)名古屋(A), 平田学体(D), 大高(H), 守山東(I), 北陵(J), 楠(S), 牧の池(T), 新郊(U), 猪子石(V)			
10/20(土)中川学体(C), 平田学体(D), 日比野(E), 南陽(F), 高針台(G), 大高(H), 北陵(J), 御田(K), 山田(M), 港明(N), 当知(O), 大森(P), 豊国(Q)			
10/21(日)名古屋(A), 中川学体(C), 平田学体(D), 守山東(I), 北陵(J), 御田(K), 若葉(L), 山田(M)			
11/17(土)日比野(E), 南陽(F), 高針台(G), 大高(H)			
11/18(日)日比野(E), 南陽(F), 高針台(G), 大高(H)			
	第1試合	第2試合	
審判	第2試合のチーム	第1試合のチーム	

10/14(日)志賀(R)			
10/20(土)天白学体(B)			
11/17(土)中川学体(C)			
	第1試合	第2試合	第3試合
審判	第3試合のチーム	第1試合のチーム	第2試合のチーム

★ 天白学校体育センター(B), 中川学校体育センター(C), 平田学校体育センター(D)は⑩10:30が第1試合です。

12月1日(土) 準々決勝 (副審は選手不可, 有資格者のみ)

日比野会場(E)				大高会場(H)			
	主審	第1副審	第2副審		主審	第1副審	第2副審
④13:30	南陽	第2試合のチーム	第2試合のチーム	①9:00	志賀	第2試合のチーム	第2試合のチーム
⑤15:00	守山東	第1試合のチーム	第1試合のチーム	⑩10:30	今池	第1試合のチーム	第1試合のチーム

12月2日(日) 準決勝・決勝 パロム瑞穂北陸上競技場

時間未定	主審	第1副審	第2副審	第4の審判員
準決勝① 10:00	東星	滝ノ水	八王子	大森
準決勝② 11:20	大高	有松	北陵	原
決勝 14:30	東陵	日比野	志賀	供米田

会場使用について (総会資料より)

- ベンチ及びその周辺には、登録した監督・コーチ・選手以外の者(登録外選手や保護者など)が入らないように、チームで徹底してください。
- ゴミは各チームで必ず持ち帰り、監督責任者で更衣場所の点検を行ってください。(会場付近についても同様)
- スパイクなどについた土や泥は、必ずグラウンドで落とし、更衣場所を汚さないようにしてください。やむを得ず汚れた場合には、掃除して帰るようにしてください。
- 器物破損が生じた場合は、必ず会場責任者に報告し、指示に従ってください。
- 会場へ問い合わせはしないでください。また、保護者の車の乗り入れ、会場付近の路上駐車はやめてください。各会場への家用車の乗り入れには、**指定駐車券(監督用、審判用)**の提示が必要です。
- 学校・学校体育センター敷地内は禁煙です。また、会場周辺で喫煙の際も、必ず吸い殻の始末をしてください。
- 学校体育センターは**9時以前**に集合しないでください。また、周辺の公園で集合したり、アップ等の活動をしたりしないでください。

審判について

レフェリーは、ルールが尊重され、試合に関わる全員がサッカーを楽しめるように、選手がプレーに集中できる環境作りを助けるための存在です。安全と公平性が保障された試合となるように、ゲームコントロールに励んでください。

(1) 競技規則(ルールブック)をよく読みましょう。

試合中に気になったことや疑問に思ったことなど、ぜひ競技規則で確認しましょう。競技規則で特にチームに指導していただきたいこと、レフェリーとして特に留意して、適用ミスのないようにしていただきたいことは以下になります。

① オフサイド

- ・反則が起きた場所からプレーを再開する。(副審は、フラッグアップするまで、ボールを追うことを止めない意識に改める必要がある)
- ・主審が再開場所を決定する。副審は、主審との確認がとれた後、すぐにオフサイドラインにポジションをとる。

② ペナルティキックとPK方式(競技規則p120参照)

- ・反則と罰則、再開方法についての適用ミスがないように改めて確認をお願いします。それらに間違いがあった場合は本部やベンチから確認するなど、適用ミスを未然に防ぐことができるようにできるとよいと思います。
- ・キックフェイントは最も罰すべき行為である。(警告→相手の間接FK)
- ・ゴールキーパーがキック前に前方に飛び出したことによりゴールを阻止した場合、警告となる。(PK方式中に2度繰り返して退場になる場合もある)
- ・PK方式では、主審のコイントスにより、キックするゴールを決める。(PK方式前に2度コイントスすることになる)
- ・PK方式中でも両チームの競技者の数は同数にする。(キッカーを外れた競技者はベンチに退く)

④ 競技者の用具

- ・試合中に用具を交換したり、修正したりするためにフィールドを出た後、主審の承認を得れば、インプレー中でもプレーに復帰することが可能である。

(2) 起きた現象(ファウル)をよく見ましょう。

- ・レフェリーとして、争点がよく見えるポジションに立ちましょう。(争点=選手同士が接触する点が見える位置に角度を合わせるために、サイドステップなどを使いましょう)
- ・激しい身体的接触をともなうプレーはサッカーの醍醐味の1つであると同時に身体接触がある以上ファウルは起きるものです。ファウルの意図やファウルされた側の状況(明らかにチームにとって不利になる、耐えられない状態でファウルを受けているなど)を見極め、感覚的に決めつけずに、起きた現象(ファウル)をよく見て、急がずに判定しましょう。

(3) 戦える(タフな)選手を育てましょう。

- ・プレーオンを活用し、手や腕を不正使用した些細なファウルを受けても、もう1プレーがんばることができるたくましい選手を育てましょう。
- ・激しくタフなプレーは認め、シャツを引っ張るなどの些細でも悪意あるプレーには厳しく対処しましょう。正しいチャージでの当たり負けをファウルとしない。ボールにチャレンジせず、相手のプレーを妨げようとするファウルを見逃さない。

試合前の審判員同士の打合せや、試合後の意見交換などを積極的に行い、指導者同士だけでなく、選手や保護者ともルールの理解と共通認識をさらに深めていただきますよう、よろしくお願いいたします。